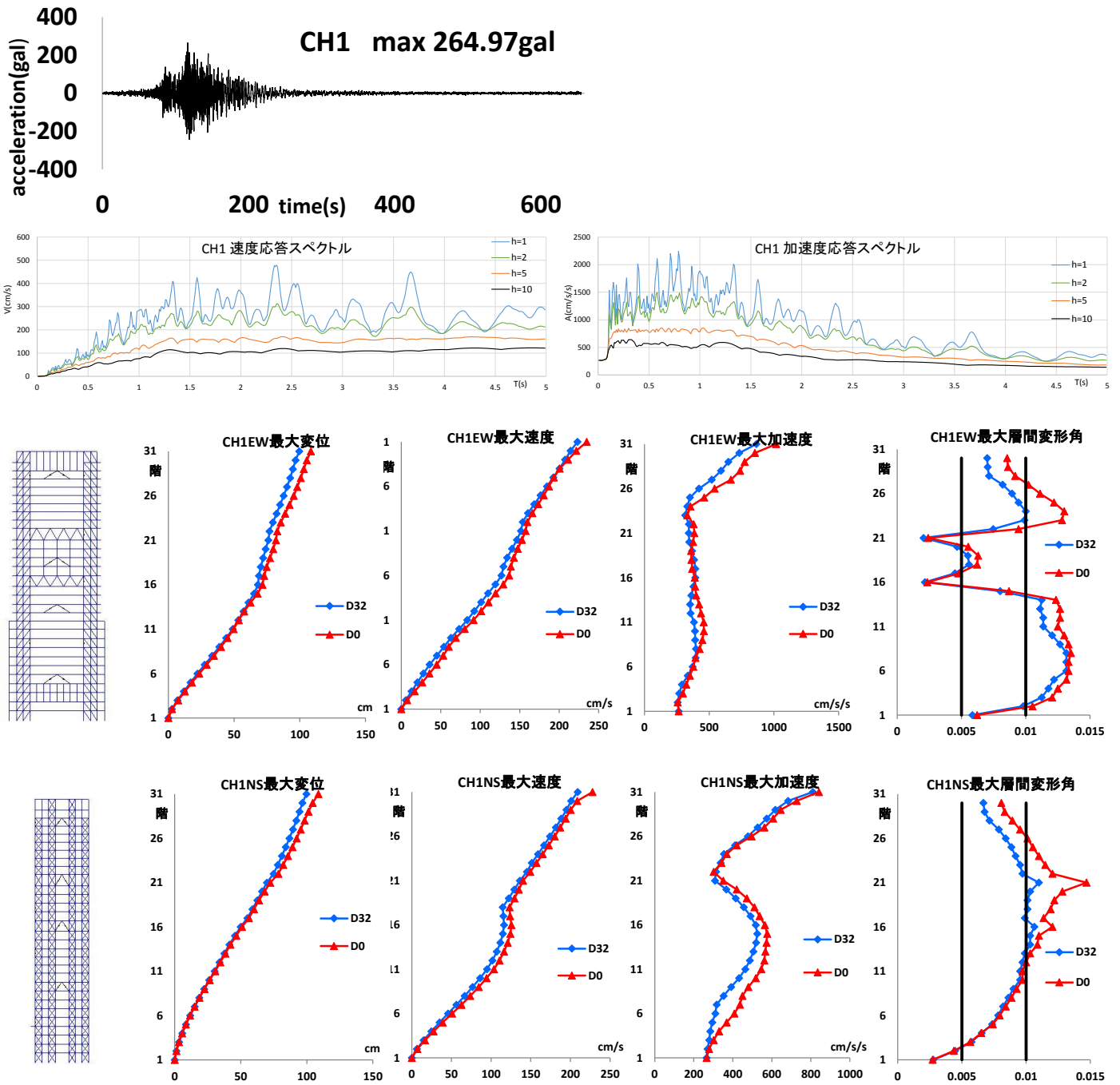


D0、D32 モデル解析結果比較



ダンパー無しモデル(D0)とダンパーを32本配置したモデル(D32)の2つにCH1を入力して応答解析を行った際の解析結果を示す。EW、NS共に変位、速度、加速度では応答の大きな低減効果は見られなかった。層間変形角では、EW方向の場合上層部では層間変形角が1/100を下回る程度に低減できているが、低層階ではダンパーが置かれている5階と13階及びその上下の階で層間変形角が少し小さくなっているのみで全体的な低減には至らなかった。NS方向では階高の大きい16階と21階にダンパーが配置されている為かそれよりも上の階では一定の低減が見られるが、低層部分ではダンパーの配置されている9階を含めて低減は見られなかった。ダンパーの効果は荒川さんが解析を行った想定東海、東南海連動地震や想定首都直下ほどの効果は見られなかった。これは応答スペクトルが大学棟の周期である3秒付近では谷になっておりダンパーの効果が発揮しづらいことや、元々の地震動が大きい為に少ない本数のダンパーでは揺れを吸収し切れなかったこと等が考えられる。